

完了後の評価個表

整理番号	2
------	---

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	北海道
地域（地区）名	あばしりせいぶ 網走西部	事業実施主体	道、市町村、森林組合、森林所有者等
関係市町村	もんべつ 紋別市ほか6市町村	管理主体	道、市町村、森林組合、森林所有者等
事業実施期間	H23年度～H30年度（8年間）	完了後経過年数	5年

<p>事業の概要・目的</p>	<p>本地区は、北海道東部のオホーツク海側に位置し、オホーツク総合振興局管内の西部を区域とする。内陸部には南北に連なる北見山地、海側にはサロマ湖をはじめとする大小の湖沼群、オホーツク海に流れ込む渚滑川及び湧別川の2本の一級河川を有する。</p> <p>本地区の民有林面積は191千haで、うち人工林面積が79千ha（人工林率41%）となっている。人工林の樹種別構成は、トドマツが53%、カラマツが25%を占め、齢級別面積は11齢級の15千haをピークに9～12齢級の森林が55%を占めるなど、本格的な利用期を迎えており、増大する利用可能な資源の活用と適正な管理が必要となっている。</p> <p>また、本地区は日本有数の森林認証取得地帯であり、持続可能な森林管理に対する意欲が高い地域であり、地区内や近隣には、製材工場や集成材工場などが立地し、大規模な生産活動が行われているほか、木質バイオマス発電所が稼働している。</p> <p>このことから、森林資源の効率的な循環利用や公益的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、伐採後の着実な再生林や間伐等の適切な保育管理を行う必要があり、本事業では、森林の有する木材生産機能をはじめ、水源涵養機能や山地保全機能などの公益的機能を発揮するために必要な再生林や間伐など森林整備を積極的に推進するとともに、これらを効率的に推進するための路網整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容 森林整備 48,065 ha 人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐、更新伐、森林作業道整備等 路網整備 15,127 m 林道開設</p> <p>・総事業費 17,381,459 千円（税抜き 16,294,184 千円） （平成22年度の評価時点 6,640,625 千円）</p>
-----------------	---

<p>① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和6年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、労務単価の上昇や優先度の高い箇所から実行したことに伴う事業費の変動、便益の算定で使用する単価の変化等によるものである。</p> <p>また、事前評価で算出した事業量よりも完了後の事業量が大幅に増加した要因については、利用期を迎えた森林における主伐・再造林が進んだことによる人工造林、その後の下刈りの面積が増大し、それに伴い林道の開設も必要となったためである。</p> <p>総便益 (B) 188,764,106 千円 (平成22年度の評価時点 65,713,401 千円※) 総費用 (C) 46,873,465 千円 (平成22年度の評価時点 12,594,796 千円※) 分析結果 (B/C) 4.03 (平成22年度の評価時点 5.21※)</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<p>更新、保育など48千haの森林が整備され、水源涵養、山地保全等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。</p> <p>また、路網開設によって車両が通行可能となり、森林整備事業地までの到達時間の短縮や資材運搬等が容易になった。</p> <p>さらに、森林整備、路網整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。</p>
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>整備された森林は、森林所有者自ら又は森林所有者から経営委託された森林組合が適切に管理を行っており、下刈り等の保育施業を適期に実施している。</p> <p>整備された路網は、草刈りや路面の整備等を行うなど、適切に維持・管理を行っている。</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>森林整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養、山地保全等といった森林の有する公益的機能が発揮されている。</p> <p>路網開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、溪流の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>林業労働者の減少や高齢化により、林業の現場では効率的で生産性の高い作業システムの導入が求められている中、路網整備により作業現場へのアクセス改善、コンテナ苗や低密度植栽など森林施業コストの低減が図られることで、森林所有者による森林施業の意欲が徐々に高まってきており、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上が図られると期待されている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>利用期を迎えた森林資源を活用し、持続的な森林経営を実現していく必要があるが、造林分野の従事者数は減少傾向となっており、労働力不足から主伐面積に対し造林面積が及ばず、造林未済地の増加が懸念される。</p> <p>このため、裸苗に比べ植栽可能な期間が長いコンテナ苗植栽や低密度植栽を推進するほか、森林施業の集約化や保育作業の省力化など効率的な作業システムを確立し、計画的な森林整備を一層推進する必要がある。</p> <p>地元の意見： (北海道)</p> <p>森林の有する多面的機能が持続的に発揮されるために、計画的な事業実施が必要である。</p>

	<p>また、森林施業の集約化など森林施業の低コスト化を促進し、森林所有者の林業経営意欲の向上を図るため、計画的かつ効率的な施業の実施に努める必要がある</p>
<p>評価結果</p>	<p>必要性： 造林や間伐等の森林整備を通じて、森林の有する公益的機能の発揮が図られ、地域における水源涵養や土砂の流出防止等として重要な役割を果たしており、事業の必要性は認められる。</p> <p>効率性： 森林整備では現地の状況を踏まえた効率的な作業システムの導入により、また、路網整備では集材効率の悪い箇所に路網を開設することによりコスト縮減が図られており、費用便益分析の結果からも効率性が認められる。</p> <p>有効性： 適切な森林施業の実施により水源涵養や土砂流出防止等の公益的機能の高度な発揮の維持増進に寄与している。また、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向け、地域が一体となった森林づくりの取組が進められていること等から事業の有効性が認められる。</p>

※平成 22 年度評価時における数値については、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

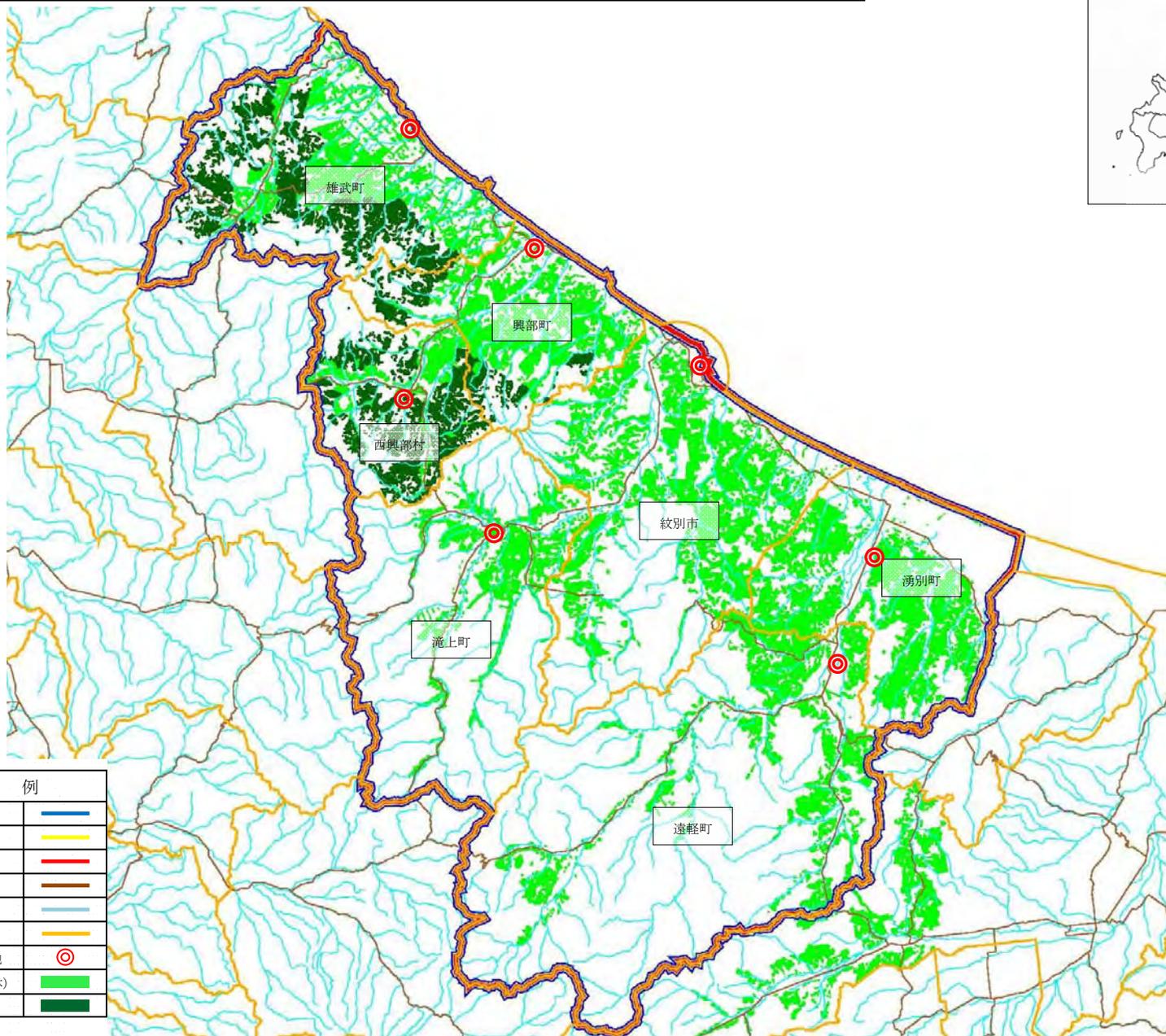
都道府県名：北海道

地域(地区)名：網走西部

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	38,413,806	
	流域貯水便益	8,359,058	
	水質浄化便益	34,256,742	
山地保全便益	土砂流出防止便益	63,643,164	
環境保全便益	炭素固定便益	17,366,367	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	185,381	
	木材利用増進便益	25,073	
	木材生産確保・増進便益	25,328,558	
森林整備経費縮減便益	造林作業経費縮減便益	5,104	
	森林整備促進便益	1,180,853	
総 便 益 (B)		188,764,106	
総 費 用 (C)		46,873,465	
費用便益比	$\frac{188,764,106}{46,873,465} = 4.03$		

森林環境保全整備事業 網走西部地域（北海道）



凡 例	
計画区界	
事業区域	
森林整備	
国道・主要道	
河川	
市町村界	
市町村役場所在地	
一般民有林（人工林）	
道有林（人工林）	